

## 副作用症状の重篤化回避


プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、他職種と連携し、患者の副作用症状を収集することで、副作用症状の重篤化回避に貢献できた事例のプレアボイドを紹介いたします。

**患者背景**

Hさん

・肺アスペルギルス・右続発性気胸で入院となった患者

【持参薬】ピレスパ®錠（200 mg）	1回1錠	1日3回毎食後
メクロプラミド錠（5 mg）	1回1錠	1日3回毎食後




看護師

Hさんですが、お薬のことで不安があるみたいです。副作用について心配されているようですので、面談をお願いできないでしょうか。

わかりました。ありがとうございます。

薬剤師



Hさんこんにちは。お薬のことで何か心配事があるとお聞きしたのですが、どうされましたか？

そうなんよ。なんか足がむずむずして落ち着かんような感じがあるんやけど、薬は関係ないやろか？

いつ頃から症状は出始めましたか？



この2週間くらいかな。

それはお辛いですね。薬の副作用も視野に入れて、主治医と相談してみますね。



Hさんのアカシジア様症状について、主治医と相談した結果、ピレスパ®の副作用予防として内服していたメクロプラミドを中止する方針となりました。今のところ、嘔気は出ていないようですが、メクロプラミドの中止後に嘔気が出現するかもしれませんのでご注意ください。

わかりました。よろしくお願いします。



メクロプラミド錠の中止後、嘔気の出現もなく、ピレスパ®錠の内服を継続できた。副作用症状と薬剤との因果関係を考察することで、副作用の重篤化を防ぐことができ、ADLの向上及び適切な薬物治療に貢献できた。